

第4章 授業外活動

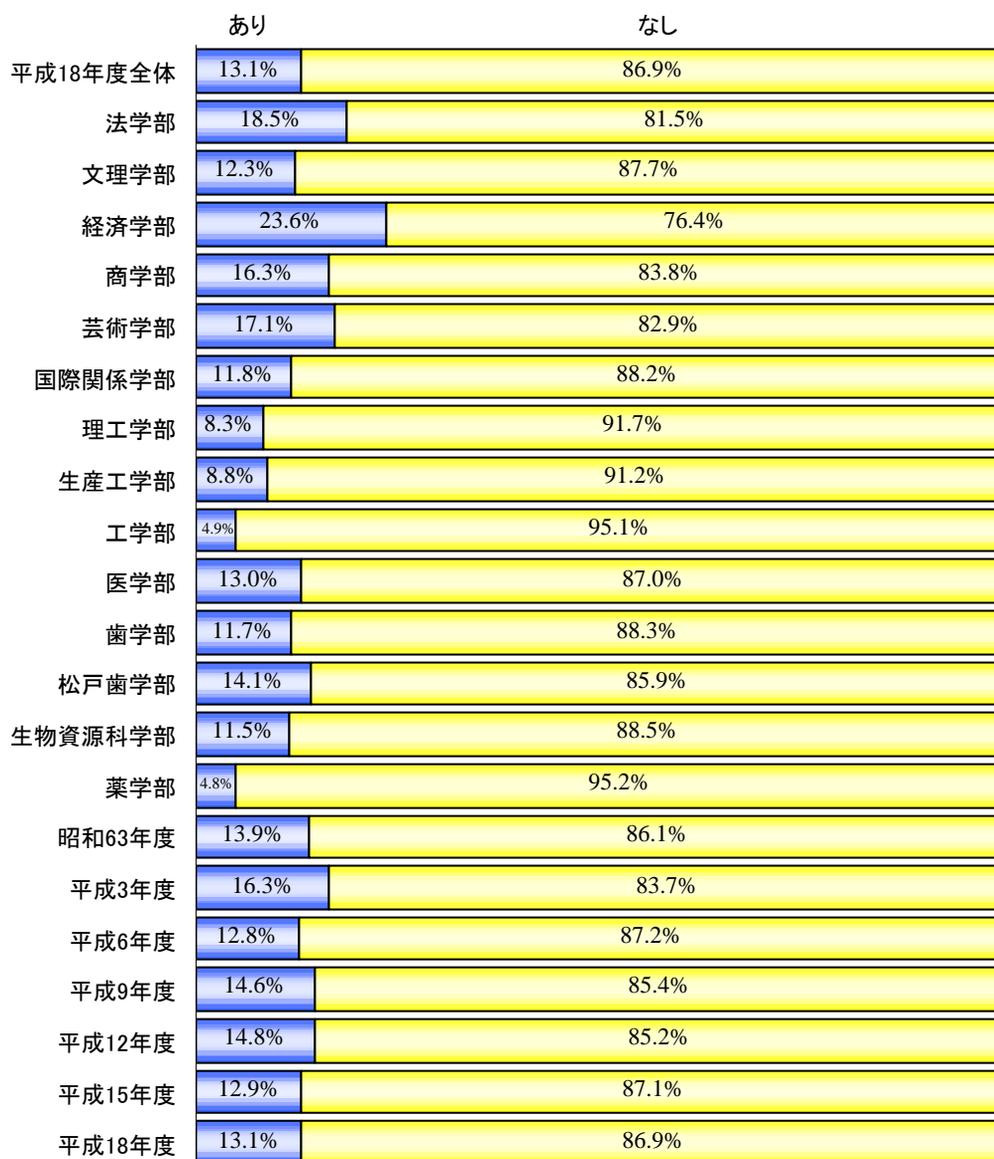
1.学外の勉強経験の有無

学外の各種学校に通った経験がある学生は13.1%。
 経済学部の学生が23.6%で最も高く、薬学部と工学部は低い。
 経年変化を見ると、平成3年度がピークで、その後大きな変化は見られない。

知識・技術や資格取得のために学外の各種学校（自動車教習所は除く）などに通った経験がある学生は全体の13.1%となっています。

学部別に見ると、経済学部で23.6%と最も高く、法学部（18.5%）、芸術学部（17.1%）、商学部（16.3%）の順で高くなっています。一方、薬学部と工学部では5%弱と低くなっています。

経年変化を見ると、平成3年度に16.3%と高くなっていますが、ここ18年間、13～14%台で推移しており、目立った変動はありません。



2.学外の勉学経験の有無－学部別経年変化

学外での勉学経験率は、経済学部は平成12年度、医学部は平成3年度がピーク。工学部は低い水準で推移、キャンパス立地も影響？全般的に減少傾向にある学部が多い。

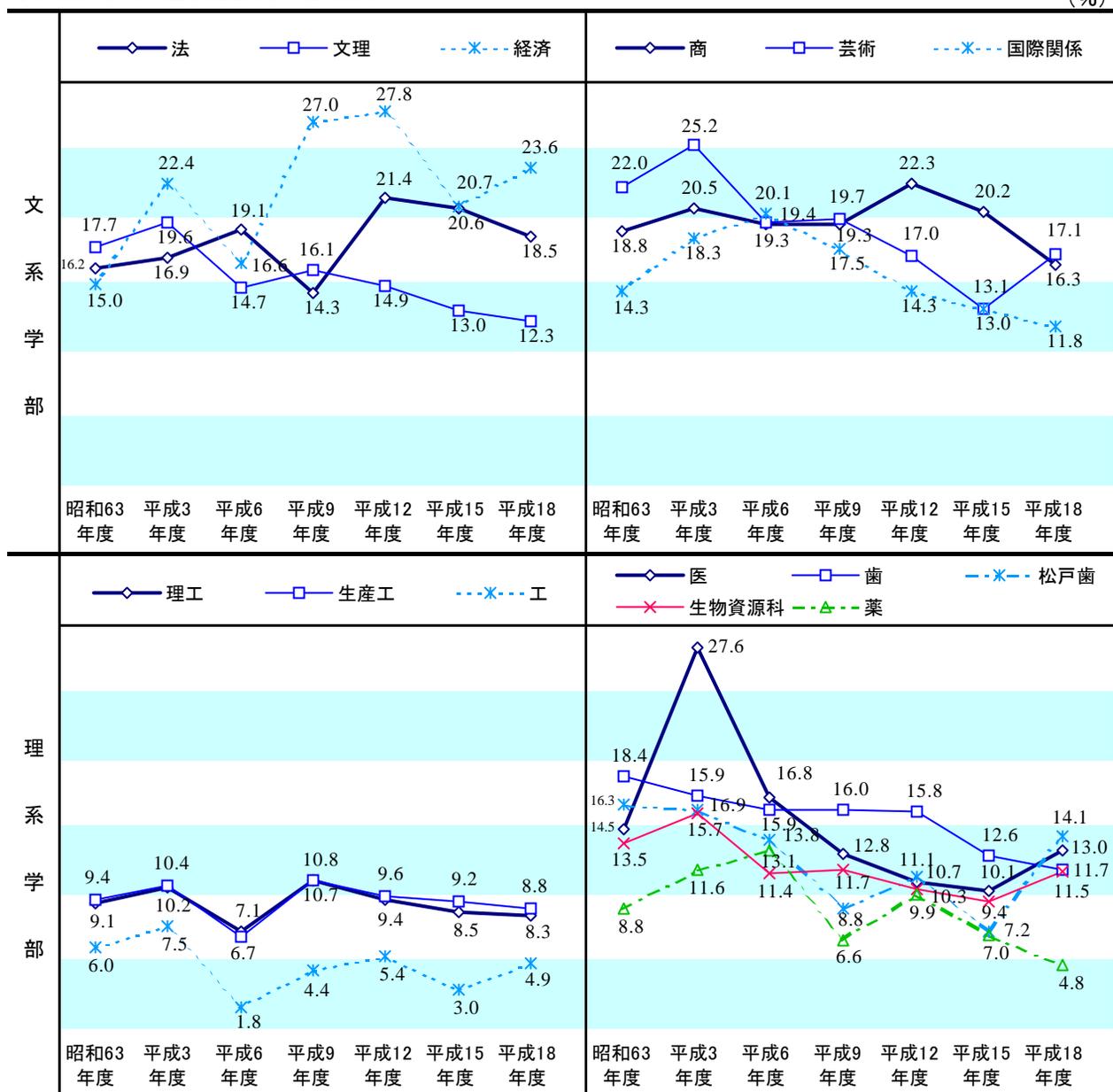
知識・技術や資格取得のために学外の各種学校（自動車教習所は除く）などに通った経験率を学部別に経年変化を見たものが下図です。

今回の調査で最も高かった経済学部を見ると、平成12年度のピーク時(27.8%)に比べると4.2ポイント減少しています。法学部、商学部も平成12年度から減少傾向を示しています。医学部は平成3年には27.6%と突出して高くなっていましたが、その後通減傾向にあります。工学部はこの18年間で1.8%から7.5%と低い水準で推移していますが、郡山テクノポリスというキャンパスの立地も影響しているものと思われます。

全般的に見ると、学外での勉学率は減少傾向にある学部が多いようです。

学部別、「学外の勉学経験率」の経年変化

(%)

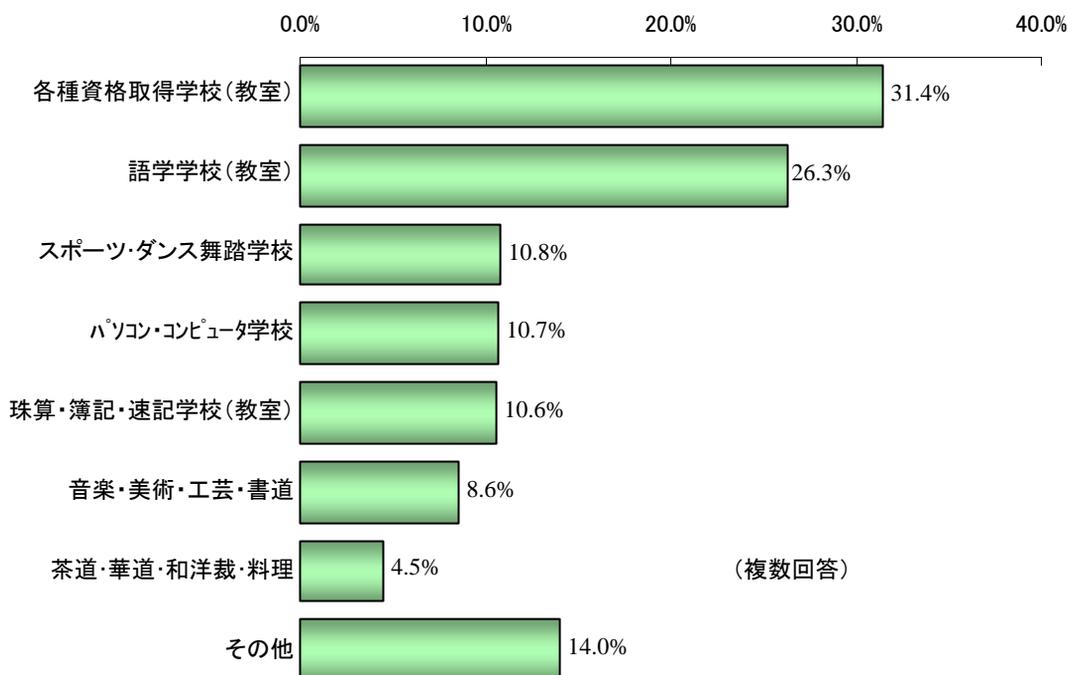


3.学外で通った各種学校の種類(経験のある学生)

各種学校の通学経験者の中では「各種資格取得学校(教室)」が31.4%でトップ。前回(3年前)トップの「語学学校(教室)」を逆転。将来に対する意識の変化を反映?

学外での勉学の経験がある学生が通う学校の種類を見ると、「各種資格取得学校(教室)」が31.4%で最も高く、「語学学校(教室)」が26.3%が続いています。「スポーツ・ダンス・舞踏学校」「パソコン・コンピュータ学校」「珠算・簿記・速記学校(教室)」は約11%ずつとなっています。

経年変化を見ると、「各種資格取得学校(教室)」は平成9年度の21.2%から増加傾向、「語学学校(教室)」は同34.3%から減少傾向にあり、今回は順位が逆転しています。本学学生全体の行動を表しているわけではありませんが、学外で勉学する学生は、将来の生活の経済面を意識する傾向が強まっていると言えそうです。また、「パソコン・コンピュータ学校」は平成9年度の19.4%をピークに大きく減少しています。学内のコンピュータ施設の充実と共に授業で技術取得する学生が増えてきたためと考えられます。

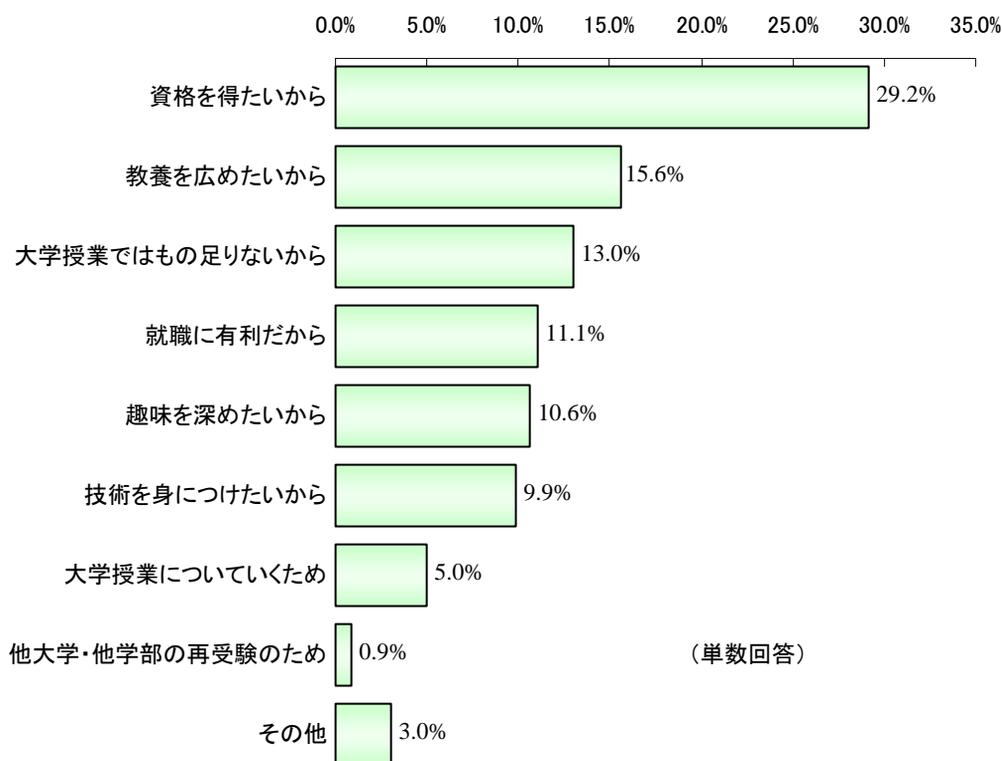


4.学外での勉学をする気になった理由(経験のある学生)

学外での勉学をする理由は「資格を得たいから」が29.2%でトップ。
将来に対する備えと、知識や専門性の向上心が動機となる傾向。

学外での勉学経験がある学生の勉学理由を見ると、「資格を得たいから」が29.2%で最も高くなっています。続いて「教養を広めたいから」(15.6%)「大学の授業ではもの足りないから」(13.0%)と、知識や専門性を高めたいといった理由が上位に挙がっています。「就職に有利だから」は11.1%にとどまっていることから推察すると、「資格を得たい」という動機は、具体的な就職意識より、漠然と将来の生活に備えたいといった意味合いが強いと言えます。

経年変化を見ると、「資格」は平成3年度の37.2%のピーク時から平成6年には8.5ポイント減少し、ここ10年余は横這い傾向となっています。また、「趣味」は減少、「授業でもの足りない」「授業についていく」は微増となっており、勉学志向が強まる傾向にあるようです。



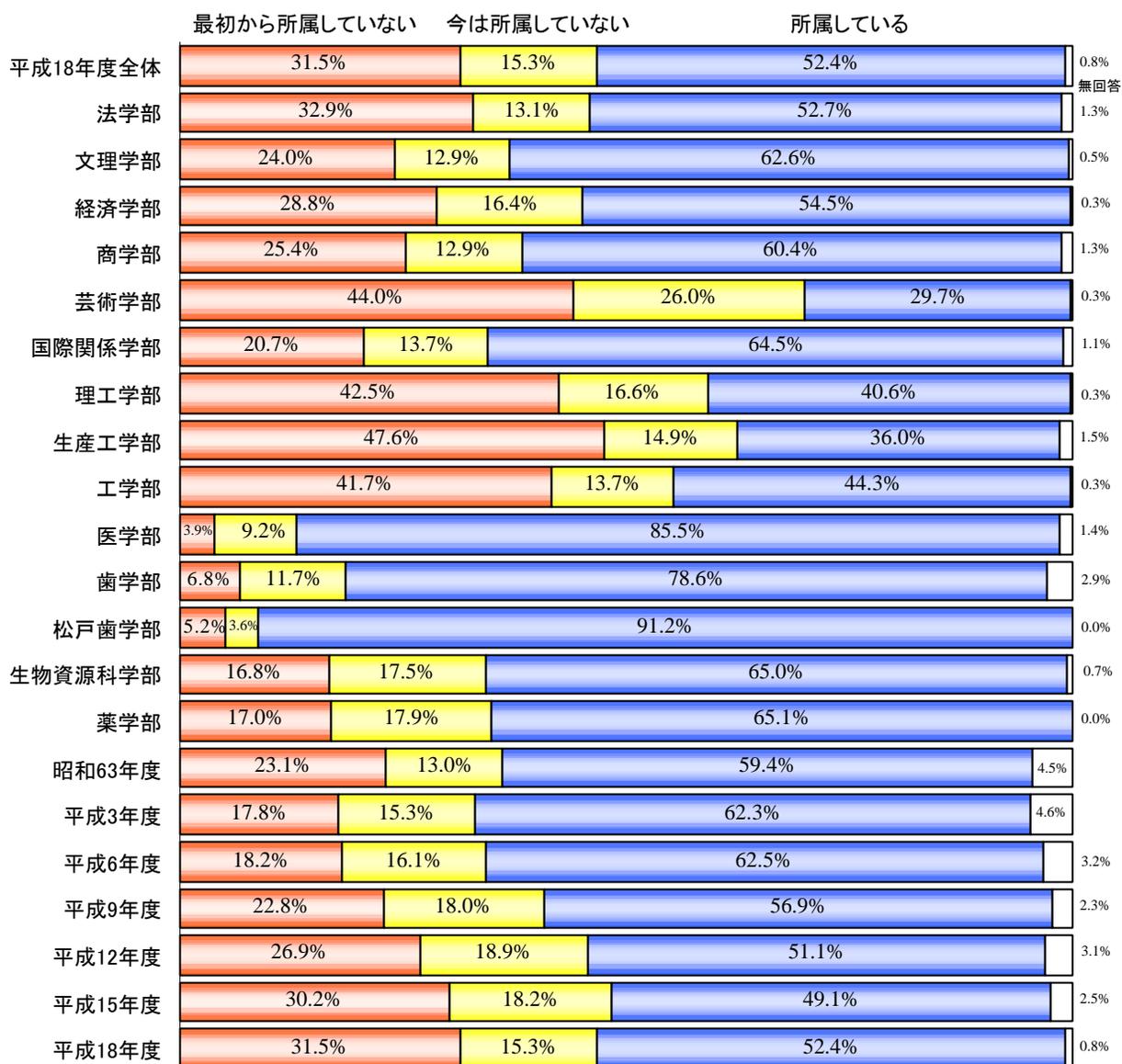
5.クラブ・サークルへの参加の有無

クラブ・サークルの所属率は52.4%。医・歯学部系で高い。
経年変化を見ると、クラブ・サークル活動離れが進行。

学生全体の調査時点(平成18年6月)でのクラブ・サークル所属率は52.4%と半数強、「今は所属していない」が15.3%、「最初から所属していない」が31.5%となっています。

学部別に見ると、松戸歯学部の91.2%を最高に、医・歯学部系の学生は所属率が8～9割と高いのに対し、生産工学部・理工学部・工学部といった理工学部系と芸術学部では「最初から所属しない」学生が40%台となっており、学部により大差が見られます。

経年変化を見ると、所属率は平成3年度の62.3%をピークに逡減し、平成15年度には半数を割るまで低下しましたが、今回の調査では52.4%とやや回復しています。一方、最初から所属しない学生は逡増しています。概観すると、クラブ・サークル活動に対しては不参加層が拡大傾向にあると言えそうです。芸術学部と薬学部でその傾向が顕著になっています(昭和63年度と比較すると26ポイント減)。

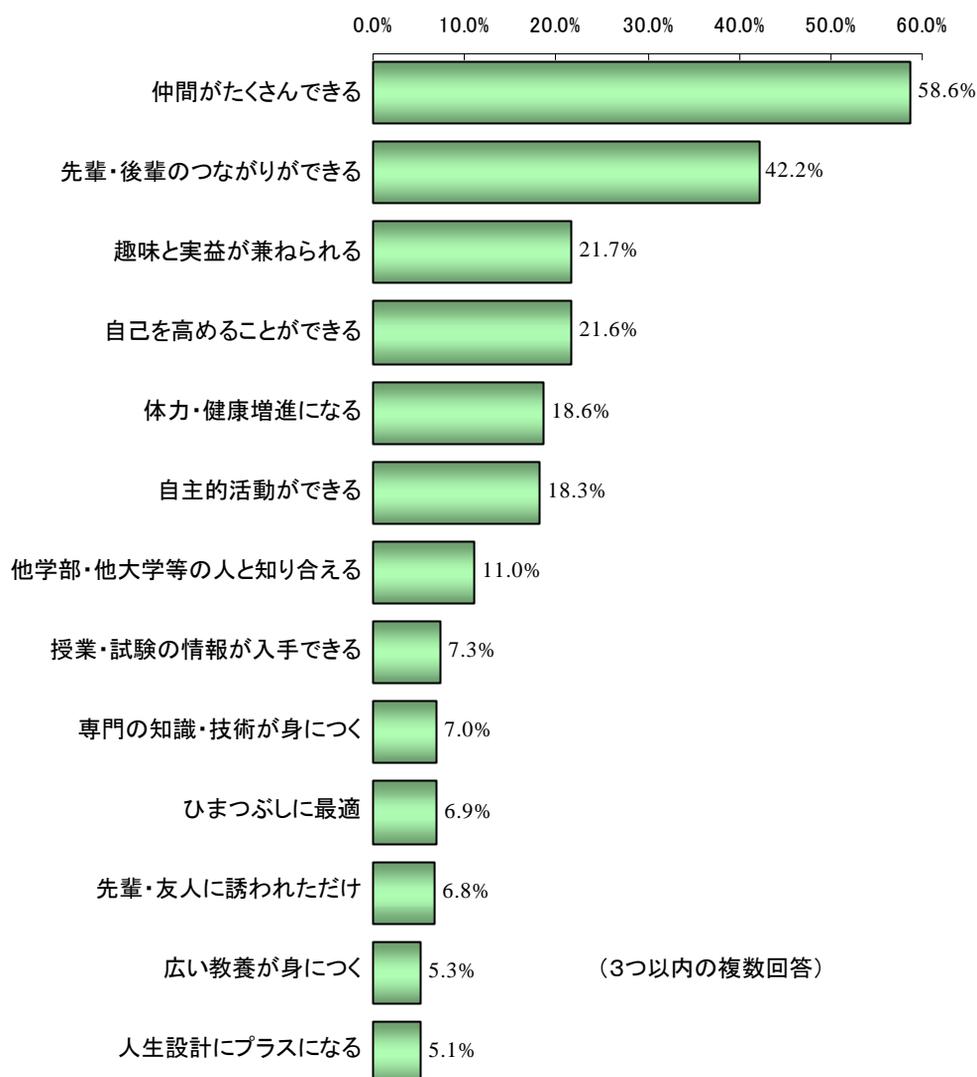


6.クラブ・サークルに参加する理由(現在「参加している」学生)

クラブ・サークルへの参加は、人間関係の構築が主要な目的。
医学部・歯学部系では、在学中からクラブ・サークル活動によって人脈作りを意識?

クラブ・サークルに参加する理由を見ると「仲間がたくさんできる」が58.6%で最も高く、「先輩・後輩のつながりができる」が42.2%で2番目となっており、人間関係の構築が主要な目的となっていることがわかります。「趣味と実益が兼ねられる」「自己を高めることができる」「体力・健康増進になる」「自主的活動ができる」という回答は20%前後となっており、自己中心の欲求が二次的な目的として挙がっています。

医学部と歯学部系では、「先輩・後輩のつながりができる」が参加理由のトップとなっています。参加率も高いことから、同学部の学生は、在学中から卒業後の人脈を意識する傾向が表われていると言えそうです。3学部とも同理由は18年間断トツとなっています。

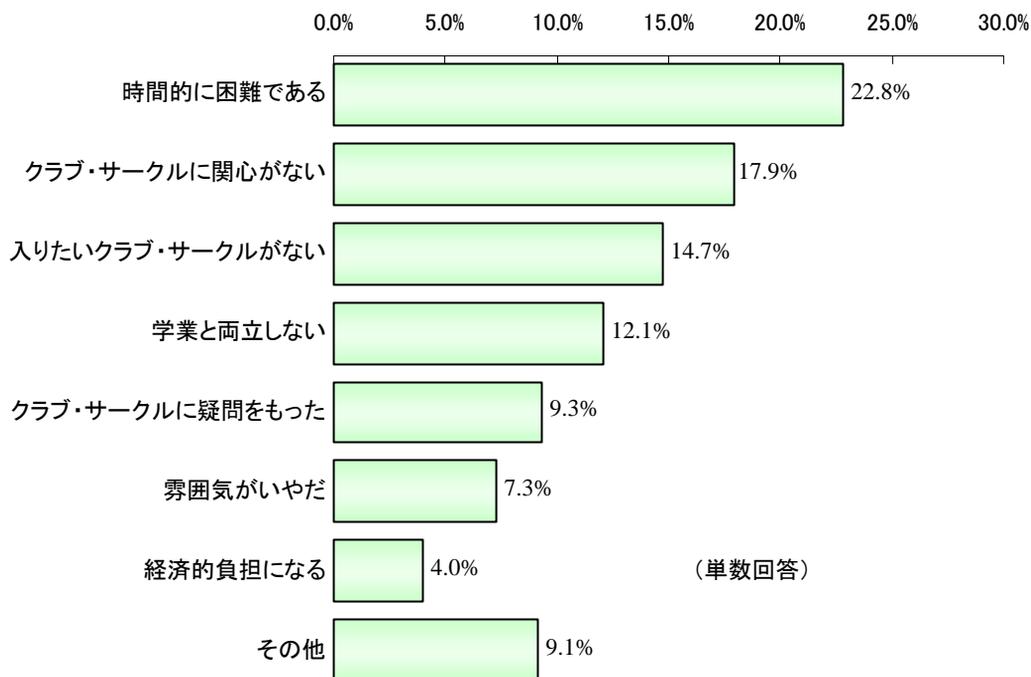


7. クラブ・サークルに参加しない理由(現在「参加していない」学生)

クラブ・サークルに参加しない理由は、「時間的に困難」と「関心がない」が双璧。
「時間的に困難」と「学業と両立しない」は漸増傾向

クラブ・サークルに参加しない理由として「時間的に困難である」が22.8%で最も高く、続いて「クラブ・サークルに関心がない」(17.9%)、「入りたいクラブ・サークルがない」(14.7%)、「学業と両立しない」(12.1%)の順となっています。

経年変化を見ると、「時間的に困難」は平成3年度の14.8%から、「学業と両立しない」は平成9年度の5.7%から漸増傾向にありあます。忙しい学生、授業に重点を置きたいためにクラブ・サークルに参加しない学生が増加しているようです。

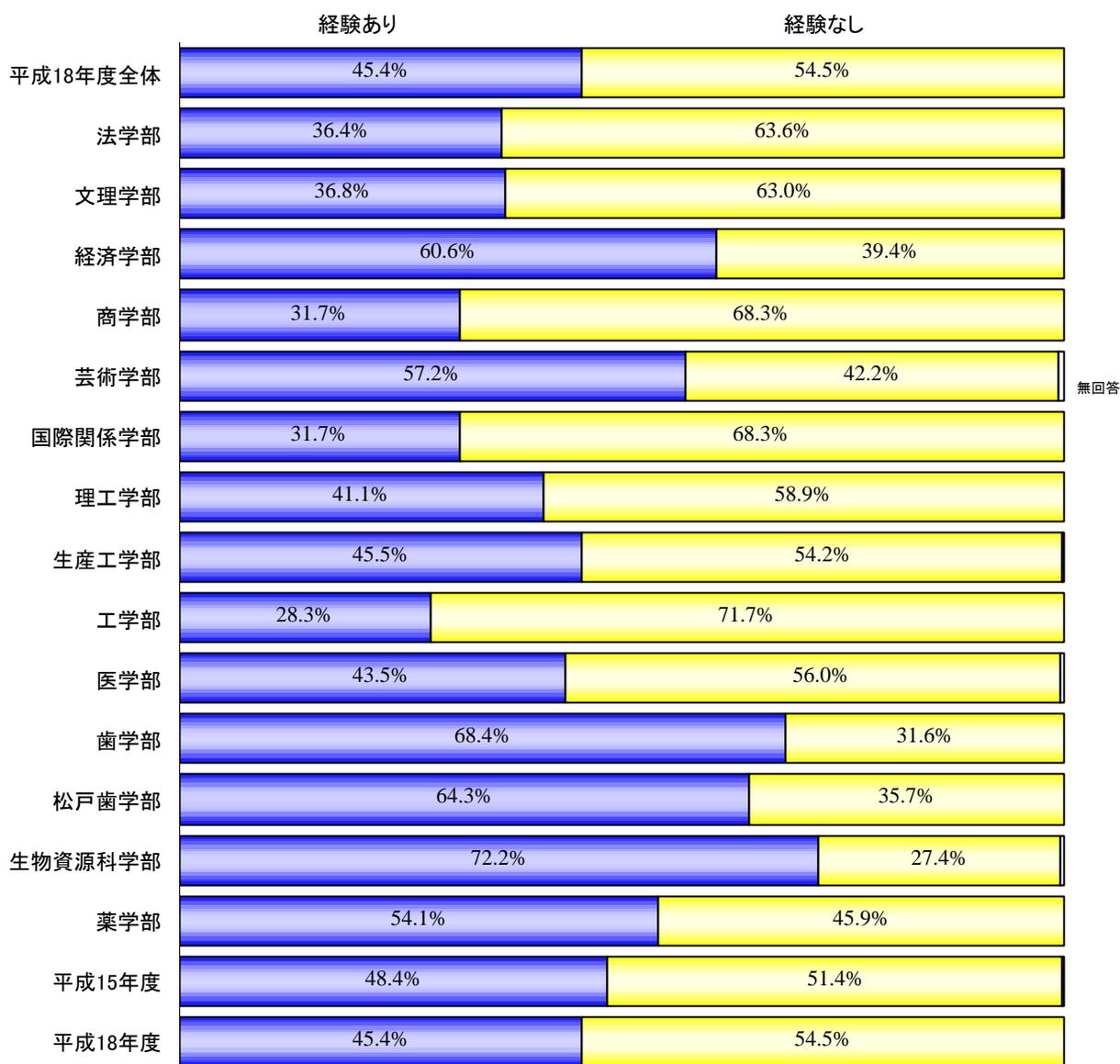


8. 学生主体行事への参加率

学生主体行事に参加経験のある日大生は45.4%と半数を割っている。
学部間で参加率の差が顕著。3年前に比べ、参加率は減少。

NU祭・学部祭・体育大会など学生主体行事への参加について本学学生全体で見ると、「経験あり」が45.4%となっており、参加経験の無い学生が過半数を占めています。

学部別に参加率を見ると、生物資源科学部で72.2%と最も高く、歯学部系と経済学部で60%台、芸術学部で60%弱と高くなっています。一方、工学部では28.3%と最も低く、商学部、国際関係学部、法学部、文理学部も30%台となっており、学部による差が顕著に表われています。前回（3年前）と比べて参加経験率は2.9ポイント減少しています。



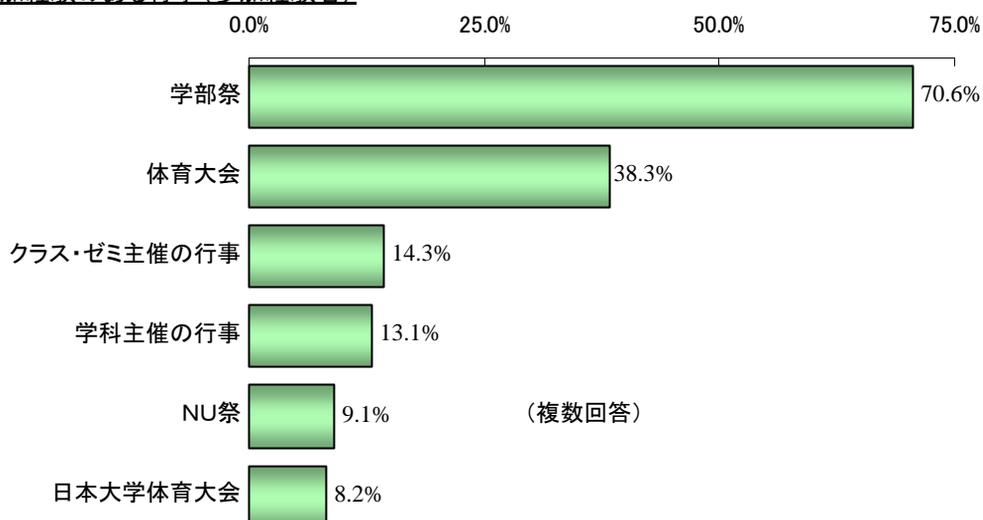
9. 参加経験のある行事と参加したことがない理由

参加経験は、「学部祭」「体育大会」と学部行事が主。NU祭の参加率は激減。
参加したことがない理由は、「興味がない」がトップ。

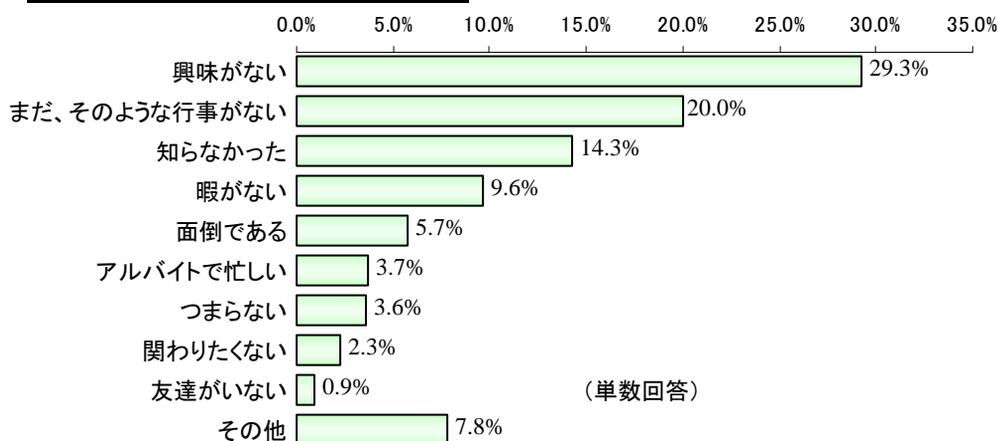
過去に参加経験がある学生主体行事は、「学部祭」が70.6%で最も高く、学部の「体育大会」は38.3%が続いています。学部ごとにキャンパスが分かれているため、学部行事への参加が中心になっています。「NU祭」や「日本大学体育大会」といった日大全体の行事は10%以下にとどまっています。3年前に比べ、「NU祭」の参加率の低下が目立っています（日大生全体を母数に算出すると、9.1%から4.1%へと5ポイント減）。総合展示発表会に内容変更された結果だと思われます。

参加したことの無い理由としては、「興味がない」が29.3%で最も高く、「まだ、そのような行事がない」（20.0%）や「知らなかった」（14.3%）といった回答が続いています。

参加経験のある行事(参加経験者)



参加したことがない理由(参加未経験者)



10.学部間交流行事として参加したい行事

学部間交流行事は、学術的なものより娯楽要素を含む体育系・文化系行事を学生は支持。具体的には、「学部間対抗のスポーツ競技会」と「映画祭」がベスト2。

学部間の交流行事として参加したい行事は、「学部間対抗のスポーツ競技会」「映画祭」が20%強と高く、「全日大文化フェスティバル」と「音楽祭」も20%弱、「全日大運動会」が15%で続いています。学術的な交流より、娯楽要素を含む体育系・文科系の行事を通して学部間の交流を深めたいという学生が多いことがうかがえます。

「学部間対抗のスポーツ競技会」は芸術学部・医学部・歯学部系・経済学部以外の9学部で、「映画祭」は芸術学部を始め7学部で、それぞれ20%以上の学生の支持を得ています。前回（3年前）は「映画祭」が23.3%でトップでしたが、今回は2.5ポイント減で2位に後退しています。

